

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、河川再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に2006年11月に設立されました。また、日中韓を中心に活動する「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	3
➤ 研究・事例紹介.....	6
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	11
➤ 会議・イベント案内.....	12
➤ 書積等の紹介.....	12
➤ 会員募集中.....	13

巻頭書記

相変わらず厳しい寒さが続き、北国の大雪に加え、インフルエンザが各地で猛威をふるっています。

東日本大震災からまもなく1年。しかし、被災地の復旧・復興はまだまだ緒に着いたばかりです。四季の移り変わりは自然の摂理ではありますが、今年に限っては、この寒さを1日でも早く乗り越え、希望の春を迎えたいものです。

本号では、中国、韓国の専門家と共同で作成してまいりました「アジアに適應した河川環境再生の手引き

ver.2」についてご紹介しています。そのほか、韓国ポチョン市で開催されたセミナーの報告、河川再生事例のデータベース作成に向けた取組みの紹介などを主な内容としています。

モンスーン・アジアの一角に位置し、地震、豪雨、豪雪、濁水など厳しい自然条件のなかで進めていかなければならないわが国の河川再生に向けて、JRRNの活動が少しでも貢献出来るようになることが、私たちの願いです。

JRRN 事務局からのお知らせ(1)

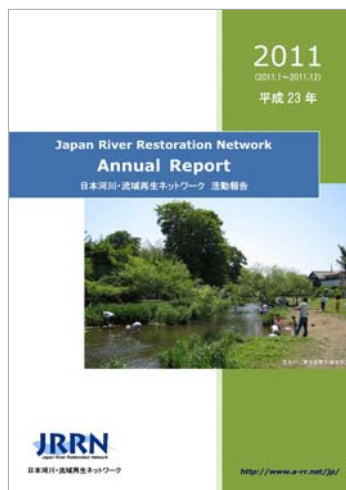
「JRRN 年次報告 2011」及び「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2」発行案内

JRRNより二つの刊行物のご案内をさせていただきます。

JRRNの設立5年目(2011年1月~12月)の活動内容を取りまとめた「JRRN活動報告2011」(日本語版)が完成し、JRRNホームページ上に公開致しました。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/JRRNAnnualrep2011.pdf>

本報告書では、JRRNの国内における活動報告に加え、現在JRRNが事務局を担うARRN(アジア河川・流域再生ネットワーク)の活動も合わせてご報告しています。年次報告を通じ、JRRNの1年間の歩みをご覧頂ければ幸いです。



また、2009年4月の初版(ver.1)発行以降、ARRNを構成する日本・中国・韓国の関係者で検討を重ねてきました「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2」が完成致しました。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRNguideline2jp.pdf>

日中韓の河川環境の課題や再生に向けた取組み等を比較しながら、皆様の河川再生活動に役立てて頂ければ幸いです。なお、本手引きの完成報告は、本ニュースターP6「研究・事例紹介(1)」で詳しくご案内しています。

(JRRN事務局・和田彰)



JRRN 事務局からのお知らせ(2)

『桜のある水辺風景 2012』写真募集のお知らせ

春の水辺にはサクラが良く似合います。今年1～2月の寒さの影響で、サクラの開花は例年と同じくらいか、やや遅めと予測されているようですが、毎年のことながら、サクラのイベントに関係している方々が気をもむ季節となりました。

JRRNでは、2010年よりサクラの季節の水辺の風景をおさめた写真を、会員の皆さまから募集して、『桜のある水辺風景』として小冊子にまとめて来ました。

今年も『桜のある水辺風景2012』の写真を募集いたします。皆さまの身近にある水辺や旅行などで訪れた水辺の桜の写真を、その写真に寄せる皆さまの思いとともに、是非お送り下さい。

応募いただいた写真はJRRNのHPで公開いたしますが、この写真集を通じて、会員の皆さまが水辺の美しさを再発見するとともに、全国各地の水辺再生に向けた会員相互の交流の場がうまれるきっかけとなれば幸いです。

ところで、サクラと聞くと、私は映画「男はつらいよ」でお馴染みの寅さんの妹「諏訪さくら」を思い出してしまいます。今年の1月にはWOWOWで「男はつらいよ」シリーズ全48作品の放映をやっていましたので、ご覧になった方も多いのではないかと思います。

ほぼ全国をくまなく放浪していると思われる寅さんですが、行く先々にはたくさんの水辺が登場しています。映画のなかで水辺は決して主役にはなりませんが、約20～40年前の水辺の貴重な映像資料を提供してくれています。河川・流域再生の目指すべき姿を考えるにあたって、こうした映像に見る水辺の分析も面白い視点を提供してくれるかもしれません。『桜のある水辺風景』も、将来そんな役割を果たせたら楽しいですね。

(JRRN 事務局・木村達司)



昨年の作品から

応募要領

- ・テーマ : 『桜のある水辺風景 2012』
- ・応募資格 : JRRN 会員または会員登録予定の方
- ・応募作品 : 2012 年に撮影された桜のある水辺の写真
 - * 応募者ご本人が撮影され、未発表のものに限ります
 - * 応募はお一人何点でも結構です。
 - * 写真に込めた皆さまの思いをコメントとして添えて下さい。
- ・応募方法 : 「応募シート」に必要事項を記入し、JRRN 事務局までお送り下さい。
- ・応募期間 : 2012 年 3 月 1 日 (木) ～5 月 31 日 (木)
- ・応募作品の取り扱い : お寄せいただいた写真は、応募期間終了後に写真集『桜のある水辺風景 2012』としてとりまとめ、HP で公開するほか、JRRN ニュースレター等、JRRN の刊行物で紹介させていただきます。



応募要領案内チラシ

■詳しい応募要領はコチラ (PDF 400KB)

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/JRRNsakura2012.pdf>

『桜のある水辺風景 2011』写真集はコチラ (PDF 2.2MB)

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/JRRNsakura2011report.pdf>

『桜のある水辺風景 2010』写真集はコチラ (PDF 1.7MB)

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/JRRNsakura2010report.pdf>

会員寄稿記事(1)

「韓国抱川市主催 漢灘江(ハンタンガン)氾濫域活用セミナー」への参加

寄稿者：伊藤一正 (ARRN 情報委員・株式会社建設技術研究所)

1. はじめに

韓国では四大河川事業が一段落し、新しい公共事業が模索されています。しかし、あまりにも四大河川事業での投資額が短期間で大きかった事もあり、公共事業費支出に、国民から厳しい視線が向けられているのも事実で、事業費の縮小、あるいは官民連携での事業実施、河川周辺区域空間の民間への開発権利委譲など、多彩な政策が準備されています。

筆者が今回出席した「漢灘江氾濫域活用方案策定のためのセミナー」は、漢灘江治水ダムの建設に伴いダム上流域に発生する湛水(氾濫)区域の積極的活用について先進事例を通して意見交換するセミナーで、2012年2月8日(水)に抱川市の半月アートホールにて開催され、旧知の大真大学の Jang Suk Hwan 先生(韓国河川・流域再生ネットワーク KRRN 事務局長)からの推薦により抱川市から招聘を受けて訪問し、講演と意見交換を行ってきました。以下に漢灘江ダム建設計画の概要、事業実施の経緯などを紹介します。

2. 抱川市

抱川市は京畿(キョンギ)道北部に位置し人口16万人を抱えて、38度線を境界に北朝鮮と接する市です。

市は朝鮮半島のちょうど中央部に位置し、市の中心部を韓灘江が流下しています。近年、抱川市は夏季の洪水時にたびたび浸水被害に見舞われており、そのためにも治水ダムの建設が望まれており、河川の整備計画にあわせ韓灘江治水ダムの建設が計画されています。

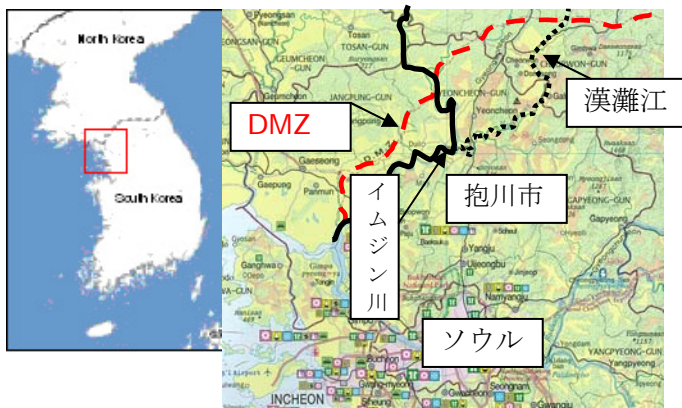


図. 1 抱川市位置

韓灘江は漢江と合流し黄海に注ぐ臨津江(イムジンガン)の支川で、ソウル市から北に約100kmに位置する河川で、流域は朝鮮半島の中部に位置し、流路延

長は141km、流域面積が2,436.4km²で臨津江の最大の支流で水系の約16.5%が休戦ライン以北に位置しています。漢灘江流域内人口密度は143.7人/km²で開発が少なく、自然の保持された流域です。漢灘江は流路幅が狭く、深い谷を形成し、外部からのアクセスが容易でないため、自然景観が良好に保持され、河川沿いに地域住民や近隣都市域市民の憩いの場としての親水環境を備えた地域が散在しています(出先:漢灘江水系河川整備基本計画)

ダム建設予定地は、北朝鮮との境界の非武装地帯(Demilitarized Zone (DMZ))に近く、したがって、自然環境が保全された地域でもあります。

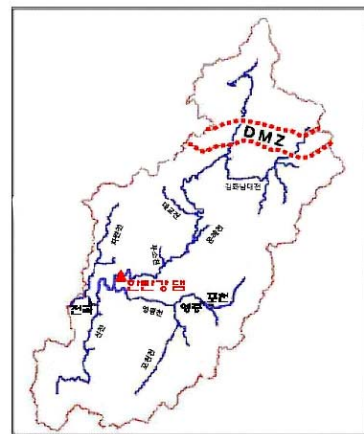


図. 2 漢灘江ダム建設予定地

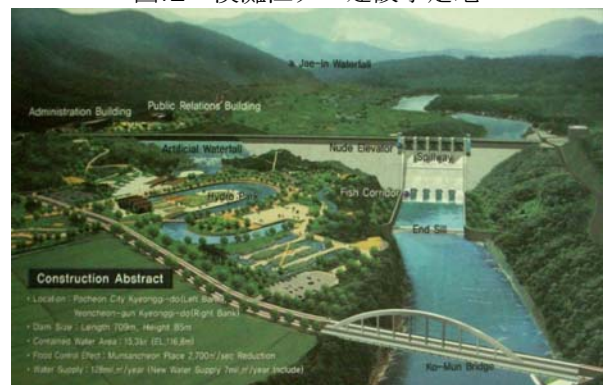


図. 3 漢灘江ダム完成図

3. 漢灘江ダム

臨津江流域は1996年、1998年、1999年と連続して大洪水が発生し、約1兆ウォン(700~1,000億円)の物的被害と128人の人命被害が発生しました。このため、2001年には韓国建設交通部にて、臨津江河川整備基本計画が見直され、基本高水流量(100年確率)が、過去16,400m³/sであったものを19,800m³/sに改定され、3,400m³/sの増加となりました。ここで、

増加した 3,400m³/s の洪水流量は、韓灘江ダムで 2,700m³/s、グンナムダムで 700m³/s を分担する総合対策が立案されました。その後、2003 年 12 月～2006 年までに検討委員会などでの審議を踏まえ、2006 年 8 月に漢灘江の洪水調節ダムを建設する案が最終確定し工事の着手が行われました。

漢灘江ダムは治水単独ダムとして計画され、通常は穴あきダムとして年間約 350 日はダム下部の放流口を開口し、洪水時のみ貯留する計画です。(日本国内では、同型のダムとして島根県の足羽川ダム、益田川ダム等がある。)

ダム周辺には管理棟 (図 .3 Administration Building)、その右側の公共資料館 (Public Relations Building)、魚道 (Fish Corridor)、水辺公園 (Hydro park)、人口滝 (Artificial Waterfall) 等の施設の整備が計画されています。

- 規模： 全長 709m、高さ 85m
- 貯水面積： 15.3km² (水位 116.8m)
- 計画洪水流量： 2,700m³/sec
- 年間水供給量： 128,000,000m³/year (貯水を行った場合)
- 総事業費： 8.1 億ドル

韓国における公共事業推進の方法は近年の 4 大河川整備事業時に改変され、民間事業者が整備資金の負担が可能となり、それに付随して周辺部の開発権利を獲得することができるようになりました。当韓灘江ダムも、事業者の韓国水資源機構 (K-Water) がダム建設後の地域開発について地域住民との対話を続け、開発計画の策定を進めており、本セミナーはその一つとして計画され、韓国内の水文水資源分野の専門家、事業実施にあたる水資源機構、地元の抱川市が主体となって実施されました。

4. 漢灘江 (ハンタンガン) 氾濫域活用セミナー

セミナーの目的は漢灘江洪水調節ダム建設によって発生する広範囲な湛水区域 (穴あきダムとして建設されるため、洪水時のみ上流の貯水池区域が湛水) を活用して環境的で効率的な活用方を議論し、将来案の参考とするもので、3 名の講師と 4 名の専門家の討論により実施されました。筆者は日本での河川の利用に関して教育や医療、福祉との連携利用、多目的遊水地の利用方式、総合治水の中での浸水区域の高度利用などを例として 20 分の講演を行い、その後の専門家討論において、来場者との意見交換のパネラー役を担いました。

5. まとめ

韓国では現在 1200 以上のダムが整備されており、その数は世界的にみて 7 番目にあたると言えます。1995 年以降、環境保護団体によるダム建設反対運動が活発化し、それに伴い韓灘江ダムを含む 7 つのダム計画が滞りました。その多くは、多目的ダムとして計画されたものであり、この度閣議決定が成された韓灘江ダムも計画当初は利水機能も目的とした計画が検討されていました。その後の事業の停滞も環境保護団体及びダム上流域に在住の約 300 世帯の住民による反対運動に端を発するものです。しかしながら、近年、韓国では集中豪雨によるひどい被害が全国に及んでいる状況があります。そのため、年間約 350 日は堤体の下部を開口し、魚類の自由な往来を可能とし、環境には影響がないとの説明でダム建設の落としどころとしています。しかしながら、この説明に対して環境保護団体からは、痛烈な批判が寄せられているのも事実です。



図.6 セミナー案内



図.7 講演会風景 (約 200 名の会場)

さらに、4 大河川事業による公共事業費の拡大は、社会福祉予算や教育予算を圧迫したことから、政権にも大きな影響を与え、昨年 (2011 年) の統一地方選挙では与党ハンナラ党 (2012 年 2 月からセヌリ党に改名) が大苦戦し、地方都市の市長に野党民主党の躍進など世情が大きく変わりつつあります。ソウル市長はハンナラ党 (かつては現大統領の李明博市長) が主導を握ってきていましたが、2011 年 10 月の選挙で民主党等が推薦した朴元淳候補が選ばれ、市政は大きく変化をきたしていると感じました。

水辺からのメッセージ No.34

国土文化研究所 特任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

ランドマーク・オーバーラップ：
スカイツリーがよく見通せる隅田川、歴史評価にも耐えて震災復興橋梁がさらに輝く



撮影：2012年1月（東京都中央区）

◆スカイツリーのビューポイントに

スカイツリーをランドマークとして観られる場所は数多くありますが、隅田川の清洲橋下流からのビューポイントには、「震災復興の華」と呼ばれた国の重要文化財の吊り橋と重なり、80数年の時間差を感じさせない景色として不思議な一体感があります。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

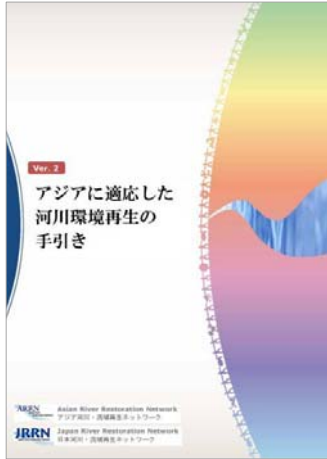
■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

研究・事例紹介(1)

「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2」完成報告

これまでに作成の進捗報告をさせて頂いておりました「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2」が遂に完成致しました。



本手引き ver.2 表紙

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRNguideline2jp.pdf>

本手引きは、ARRN の活動の主軸の一つとして継続的に作成・更新を進めているもので、河川環境を再生する上で欠かせない基本的な考え方やその方策を、写真を中心に判りやすく解説しており、読者の身近な川への関心を高め、新たな再生に向けた取組みにつながるきっかけをつくることを目指しています。2009年3月に本手引き ver.1 を発行して以来、ARRN 技術委員の指導のもと更新に関する議論を行い、3年を経て ver.2 を発行するに至りました。

【本手引きの更新履歴】

2009年3月 手引き ver.1 (日本語・英語) 発行
http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRN_Guideline1_jap.pdf

2011年1月 手引き ver.1 別冊資料 (英語) 発行
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRNguideline1-separatevol.pdf>

2012年2月 手引き ver.2 (日本語) 発行
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRNguideline2jp.pdf>

2012年3月 手引き ver.2 (英語) 発行 (予定)

今回の手引きの更新の主旨は、日中韓の河川再生に関する歴史・背景や、具体的な課題、対策を手引きに組み込むことで、各国の河川再生の多様な特徴やそれらの違いの理解に資することです。更新作業に当たっては、各国の技術委員による情報交換を主体に進め、各国の情報をそれぞれの専門家が執筆することを基本とするとともに、各国の情報をバランス良く取り入れることに留意しました。

【本手引き ver.2 の主な更新内容】

- ①河川環境再生に関する背景・経緯、課題及び対策をわかりやすく示した具体例を組み込む。
- ②日中韓の情報をバランスよく取り入れるため、各国の写真に差し替える。
- ③河川再生の参考となる情報源 (ウェブサイト) をリスト形式で整理する (付録)。

中国、韓国は隣国でありながら、河川再生に関して日本語に翻訳された資料が意外と少なく、有名な事例を除いてあまり知られていませんでしたが、本手引きでは各国の専門家自らが執筆した最新かつリアルな情報を紹介することができたとと言えます。例えば、中国や韓国でも日本と同じように外来種が問題視されているなどの共通点や、河川再生に対するアプローチの相違点などが発見できると思いますので、本手引きを是非ご覧になって下さい。

なお、本手引きで触れた内容が河川再生を考える際に必要なすべてを網羅している訳ではありません。引き続き、ARRN 構成メンバーで協議を重ねながら、実用的な河川再生のための手引きに仕上げていきます。また、本手引きに対する皆様からのご意見も積極的に取り入れていきたいと考えていますので、ご意見等がございましたら ARRN/JRRN 事務局まで連絡をお待ちしております。

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

1. はじめに	1
(1) なぜ河川環境の再生か?	1
(2) 手引きの目的	2
(3) 手引きの対象者	2
(4) 手引き作成の経緯と位置づけ	2
2. 川の本質を知るために大切な視点	4
(1) 川の本質・歴史・文化の変遷を熟知する	4
(2) 川を流域で捉える	6
(3) 川の流れの変動を知る	7
(4) 川の役割と地域の関係者を把握する	8
3. 河川環境を再生する際の留意点	10
(1) 川の特徴と課題を踏まえた再生目標を設定する	10
(2) 流域の視点から再生を計画する	21
(3) 川の流れの変動を踏まえた再生を考える	22
(4) 地域の関係者と連携して再生を進める	23
4. 良好な河川環境を再生するための方策	24
(1) 河川環境再生に向けた方策の概要	24
(2) 川の本質を見極めるための調査・研究	25
(3) 川に対する流域住民の意識形成	28
(4) 継続可能な活動とするための合意形成	30
(5) 健全な水質と水量の確保	32
(6) 癒わいのある水辺空間・親水空間の形成	35
(7) 川が本来持つ自然環境の再生	38
5. 河川環境を再生した取組み	41
(1) 中国における河川再生事例	41
(2) 韓国における河川再生事例	43
(3) 日本における河川再生事例	46
付録1. 既存の技術指針一覧 (日本国内)	49
付録2. 河川再生の欧米情報源一覧	51

本手引き ver.2 の目次

「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver. 2」概要

第1章 はじめに

河川再生の意義、それに対する本手引きの目的や対象、位置づけを整理。

- 【主な更新点】
- ・手引きの更新主旨、作成経緯を追記



第2章 川の本質を知るために大切な視点

川の状況を把握するための基本となる視点（考え方）を整理。

- 【主な更新点】
- ・日中韓の河川再生の経緯（河川行政の動向）を追加
 - ・日中韓の写真の差し替え



第3章 河川環境を再生する際の留意点

河川再生の進め方の留意点を整理。

- 【主な更新点】
- ・以下の視点から日中韓の具体的な課題を追加
 - ①水環境（水質・水量）
 - ②水辺の親水性
 - ③川の自然環境



第4章 良好な河川環境を再生するための方策

河川環境の課題に対する対策事例等を紹介。

- 【主な更新点】
- ・前章で示した日中韓の河川環境の課題に対する具体的な対策事例を追加



第5章 河川環境を再生した取り組み（新規）

日中韓の河川再生の優良事例を紹介。

中国：辛江塘河、転河
 韓国：清溪川、烏山川、良才川
 日本：隅田川、和泉川、鉏路川



付録1. 既存の技術指針

河川再生で参考となる日本の技術指針を整理。

- 【主な更新点】
- ・最新情報に更新



付録2. 河川再生の欧米情報源（新規）

河川再生で参考となる情報源として欧米（英語）のウェブサイトを整理。



研究・事例紹介(2)

国内事例データベース及び収集成果の公開に向けて

1. はじめに

多様化する国民ニーズや時代背景のもと、親水性の向上、河川とまちづくりといった具体的な課題がクローズアップされてきました。

このため、後に地域住民と一体となった川づくりの先駆けとなる「ふるさとの川整備事業」、「マイタウン・マイリバー整備事業」など、多様な河川環境に関する事業が開始されました。これら事業は現在「かわまちづくり支援制度」としてソフト施策を重視した制度となり継続されています。



河川再生の成果の一例（北海道・茂漁川）

このような河川への要請の多様化を踏まえ、1997年には河川法が改正されて、治水利水に加えて環境が河川行政の目的の1つになるとともに、アカウンタビリティ（説明責任）、住民意見の反映などを重視した河川整備基本方針や河川整備計画が導入されました。2002年には河川環境の保全・整備のみを目的とした「自然再生事業」が開始され、その翌年には「自然再生推進法」が施行され、今日まで河川環境や生物の多様性の保全に関する更なる取組みが進められています。

2. 事例収集の取組み

日本河川・流域再生ネットワーク（以下、JRRN）では、その様な水質改善、親水整備、自然環境の保全再生等、河川環境の向上を目指した事例の情報を収集しています。

収集した情報の一部は、2011年3月に発行した事例集「よみがえる川 ～日本と世界の河川再生事例集～」(以下、事例集とする)として紹介しました。事例集発行後、JRRN 会員の皆様の協力の下、事例集に対するご意見・感想をアンケートにて収集させていただきました。

そのアンケートでは、求められている河川環境情報の内容を知るとともに、新たな視点等をご教授いただきました。

それらご意見を踏まえて、JRRN が設立当初より掲げる『河川再生に関する情報を共有できる組織として、会員間のコミュニティーを拡げながら、河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与する』という理念に基づき、これまでに収集した情報をデータベースとして公開するとともに、皆様からの更なる情報を得て河川再生に関するデータベースの拡充を図っていきたいと思います。

3. 河川再生事例データベースの公開

その取組みの第一歩として、事例集に対するアンケートでいただいた『官民協働の維持管理活動の体制や取組みを知りたい』、『具体的な河川環境整備の工法や工夫を知りたい』等のご意見を基にデータベースに掲載すべき情報項目を抽出し、その様式を2012年3月中にJRRN ウェブサイト上で公開します。

このデータベースは、将来的には、我が国にどのような河川再生の取組みがあるか、その事業や活動の内容、工夫、効果を総括したものとなるよう情報の補填・拡張を図っていくつもりです。

特に、産官学民の協働による取組みを総括したデータベースとしたいと考えております。

1970年代以降には、河川管理者、市民団体等により河川再生に関する様々な事業・活動が行われております。しかしながら、現在JRRN で収集している事例は約240とわずかで、データベースというには事例数、情報内容ともに不十分な状況です。

データベースの情報項目とその内容

項目名	内 容
河川名	事例として紹介する河川の基礎情報を掲載します。 細目情報として、当該河川の属す「水系」、「河川等級」、「河川名」とその「河川の読み」及び河川名以外で事例の箇所を特定する情報（湿地、湖沼、水路等の名称）として「施設名称等」を掲載します。
所在地	更に事例の箇所を特定する細目の情報として、「都道府県名」及び「市町村名」を掲載します。加えて、JRRN ウェブサイトの「日本の水辺」紹介ページで『Google マップ』を活用した事例位置の紹介をします。
再生の目的・対象	河川再生事例の目的・対象を大きく 5 つのカテゴリーに分類し、情報の検索を容易にする工夫をしています。具体的には次の 5 つのカテゴリーとします。 ①生物の生息・生育環境、②水質・流量、③舟運、④歴史・文化、⑤地域のにぎわい
再生前の状況（再生経緯）	具体的な数値や固有名詞を用いて、極力具体的に事例毎の再生前の課題や再生に至る経緯を記述します。
河川再生の概要	河川再生の取り組み（事業）の概要を記載します。細目として、「事業名称」、「事業費用」、「事業期間」等があります。更に、「計画・設計の工夫」、「施工の工夫」、「維持管理・利用」の 3 つの細目があり、各再生事例の創出の工夫などを整理します。
関連する条例・計画等	『ラムサール条約』、『鶴見川水マスタープラン』等、当該事例に関連した条例、条約や計画等を掲載します。
再生の効果	事業や地域の取組の結果として、河川再生により自然環境、地域にどのような影響及、プラスの効果をもたらしたかを記載します。
認定・受賞歴	事例の認定履歴、表彰（受賞）履歴を記載します。
協働体制	「事業概要」の細目「維持管理・利用段階」の補足情報として、河川環境の維持管理を目的とした官学民の役割分担（協働体制）を掲載します。
関係機関・団体の連絡先	事例に関係する団体・機関の名称と連絡先を掲載します。原則、公開する連絡先の情報はインターネット等で、既出のものとし、公開されていない連絡先の掲載にあたっては、当該機関に許諾をいただきます。
主な参考情報・外部リンク	事例情報の整理に用いた主な情報源（書籍・論文・ウェブサイトなど）を掲載します。また、ここで掲載した情報は、JRRN ウェブサイトの「書籍・教材・論文」の紹介ページにも反映する予定です。
キーワード	再生の内容、再生の特徴、事例（河川）の特徴の視点から、事例を特徴づける語句を掲載します。この項目も、情報の検索を容易にする工夫の一つです。

そのため、JRRN 会員の皆様のご協力いただいで、各項目に関する情報、写真、その他データベースの改善要望等を収集・反映し、より精度の高い、かつ有用なデータベースの構築を目指します。

4. 事例情報の収集・公表の流れ

事例情報の収集・公表の流れを、次頁の模式図に示します。

情報は、JRRN 会員皆様からの提供情報に、JRRN 事務局独自に収集する情報も加え、JRRN 事務局にて整理の後、定期的にデータベースの更新を行う予定です。公開されたデータベースの情報は、更に JRRN ウェブサイトの河川紹介コンテンツ、事例集「よみがえる川」のように再編し、インターネット及び出版物の媒体で広く公布していきます。

5. おわりに

我が国における河川再生に向けた取組みとして、例えば国が主導する形で「多自然川づくり」「自然再生事業」、「かわまちづくり支援制度」等が実施されてきました。こうした事業そのもののデータベース化も大切ですが、こうした取組みの中で、どのようにして産官学民の協働で河川を保全・再生し、またその結果として良好な河川環境が形成され、更に今もなお持続しているかについての知見を充実させることが重要と考えます。

現状では、全国の河川再生事例について、産官学民がどのような役割分担を担っているのか総括した情報はほとんどありません。

こうした情報が広く社会に知られることで、他の市民団体の活動の参考となるのみならず、河川管理者と市民団体の更なる連携が促進され、結果として国民の一人一人による良好な河川環境の形成に寄与するものと考えています。

情報の提供方法、データベースに関するご意見をいただく方法等については、今後 JRRN ウェブサイトに掲載する予定です。

皆様のご協力の程よろしくお願いたします。

(JRRN 事務局 伊藤将文)



市民による清掃活動（静岡県・源兵衛川）



川に関心を持つ仲間を増やし、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に貢献する

JRRN が目指す再生事例情報の収集～普及～活用までの流れ

【JRRN 会員からの提供情報】

■『河川汽水域環境に関するワークショップ』(3/13 開催)

JRRN 個人会員の西浩司様 (いであ株式会社) からの行事のご案内です。

- 主催：国土交通省国土技術総合政策研究所
- 日時：2012年3月13日(火) 13:00~16:30
- 場所：ベルサール丸の内(東京駅・有楽町より徒歩1分)

◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/3122.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■「河川文化を語る会」

JRRN 団体会員である公益社団法人日本河川協会から河川文化を語る会のご案内です。

【第165回】

- ◆テーマ：「アジア太平洋地域の災害を語る」
- ◆日時：2012年3月9日(金) 13:30~16:35
- ◆場所：愛媛大学 南加記念ホール(松山市)

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/3105.html>



【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) の最新会報(Bulletin)」

RRC (英国河川再生センター) の最新会報(2012年1月号)をRRC事務局より送付頂きました。

◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/3104.html>



【第166回】

- ◆テーマ：「災害時の人間の心理と行動」
- ◆講師：広瀬弘忠氏(安全・安心研究センター センター長/東京女子大学名誉教授)
- ◆日時：2012年4月17日(火) 18:00~20:00
- ◆場所：厚生会館(全国土木建築健保)

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/3114.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「ミシガン湖への外来種の侵入防止の対策案の公表」に関する報道記事紹介

JRRN 個人会員の(株)日建技術コンサルタント・益倉克成様より、「米国ミシガン湖への外来種の侵入防止の対策案の公表」に関する報道記事を御提供頂きました。

◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/3111.html>



【海外からの提供情報】

■「英国・環境食糧省による河川流域再生基金創設」案内

RRC (英国河川再生センター) 事務局より、イギリス環境食糧省による河川流域再生基金 CRF (約34億円) 創設の案内を頂きました。

河川再生に関わる政府主導の公募型公共事業とも言え、今後の展開に注目です。

◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/3112.html>



【海外からの提供情報】

■「第15回国際河川シンポジウム～急速な都市化における川」案内

本年で第15回目となる国際河川シンポジウム(International Riversymposium)が、「急速な都市化における川(Rivers in a Rapidly Urbanizing World)」を主テーマに、2012年10月中旬にオーストラリア・メルボルンで開催されます。

<2012年のサブテーマ>

- ・都市を流れる水 ~川と共存した都市づくり
- ・健全な川 ~健全な川・経済・人
- ・川の生態 ~表流水と生態系
- ・川に関する知見 ~実践に向けたツールと技術
- ・川をめぐる軋轢 ~持続可能性への道筋
- ・川での協働 ~合意形成から政策、ガバナンスまで

◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/3113.html>



会議・イベント案内（2012年3月以降）

（JRRN/ARRN 主催・共催の会議・イベント）

現在企画中です。

（その他の河川再生に関する主なイベント）

■第6回 日本の“いい川”シンポジウム&講習会
○日時：2012年3月3日（土） 13:00～18:00
○主催：多自然川づくり技術普及研究会
○場所：発明会館 地下ホール
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/3045.html>

■第165回河川文化を語る会『アジア太平洋地域の災害を語る』（P11-JRRN 会員お知らせ参照）
○日時：2012年3月9日（金） 13:30～16:35
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/3106.html>

■フォーラム 誰のために河川を美しくするのか
○日時：2012年3月10日（土） 13:00～16:30
○主催：琵琶湖淀川流域圏連携交流会
○場所：淀川河川事務所伏見出張所内 流域センター
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/3130.html>

■河川汽水域環境に関するワークショップ～河川汽水域の持続的な保全・再生に向けて～（P11-JRRN 会員お知らせ参照）
○日時：2012年3月13日（火） 13:00～16:30
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/3123.html>

■第166回河川文化を語る会『災害時の人間の心理と行動』（P11-JRRN 会員お知らせ参照）
○日時：2012年4月17日（火） 18:00～20:00
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/3115.html>

■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に向けた様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。（JRRN 事務局）

書籍等の紹介

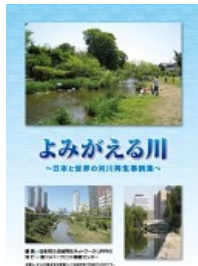
■よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集～（2011.4 発刊）

- ・編集：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
- ・発行：（財）リバーフロント整備センター
- ・価格：無料

※本冊子の入手方法

本事例集をご希望の方は、JRRN 事務局までご連絡ください。なお、JRRN 会員限定サービスとさせていただきます。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。非会員の方は、JRRN 会員登録後にお申込下さい。

info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862



■多自然川づくりポイントブック III 中小河川に関する河道計画の技術基準; 解説(2011.10 発刊)

- ・著者：多自然川づくり研究会
- ・編集：（財）リバーフロント整備センター
- ・発行：公益社団法人 日本河川協会（2011/10）
- ・価格：¥2,500（税込）



本書は、多自然川づくりのポイントブックの第3弾として、技術基準改定（平成22年）における河岸・護岸・水際部に関する具体的な解説とともに、ポイントブックIIの内容に見直しを加え再編集されたものです。

■第8回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム講演録（2011.12 発刊）

- ・編集：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
- ・発行：JRRN
- ・価格：無料

※本冊子の入手方法

以下のページより電子版をダウンロードすることができます。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/>



■アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2（2012.2 発刊）

- ・監修：ARRN 技術委員会
- ・編集：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
- ・発行：ARRN/JRRN
- ・価格：無料

※本冊子の入手方法

以下のページより電子版をダウンロードすることができます。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/>



会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

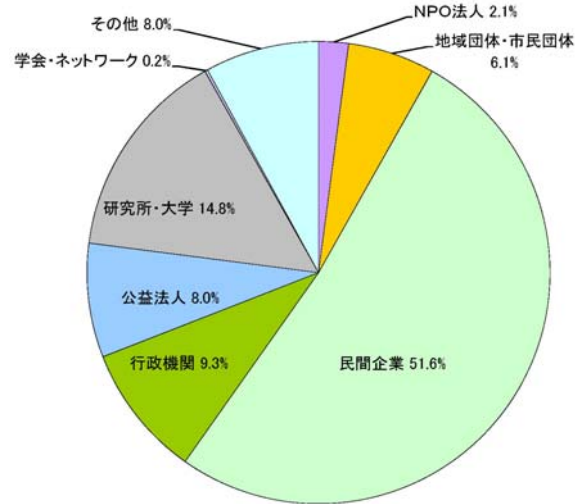
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に1回～2回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>




2012年2月29日時点の個人会員構成
(個人会員数：543名、団体会員数：42団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力 ^{※1}	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ^{※2}	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信 ^{※3}	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ^{※3}	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ^{※4}	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ^{※5}	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載 ^{※6}	◎	△ ^{※7}	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ^{※8}	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ^{※9}	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
財団法人リバーフロント整備センター 内
〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階
Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、(財)リバーフロント整備センターと(株)建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

リバーフロント整備センター
財団法人 Foundation
for Riverfront Improvement and Restoration

建設技術研究所
国土文化研究所